

2009年6月21日

[ルート] 蓬田口→袴腰岳→赤倉岳→蓬田口  
 [参加者名] CL H.NAKAMURA 他7名  
 [コースタイム] フェリー駐車場 6:05 → 「村の駅」よもっと 6:30～6:35 → 蓬田口 駐車場 6:58  
 ～7:15 → 蓬田無線中継所 登山口 7:45～7:53 → 鍋森 9:43～9:47 → 袴腰岳山  
 頂 10:50～11:35 → 大倉岳分岐 11:50 → 大倉岳鞍部 13:15～13:20 → 赤倉岳山  
 頂 13:40～14:06 → 蓬田口分岐 14:53 → 蓬田口駐車場 15:40 → フェリー駐車場  
 16:50

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

国道 280 号線 蓬田川手前の農道を左に進む。農道～夕越幹線の標識があり、新幹線の工事現場を過ぎ、舗装道路から砂利道 8km 位で、林道終点が蓬田駐車場。5 台くらいの駐車スペースがある。登山口にはトイレはない。

[山行記録]

フェリー駐車場出発の時は曇り、今にも降りそうな空模様でした。2 台に分乗し 6:05 出発。「村の駅よもっと」でトイレ休憩し、蓬田口駐車場に到着 6:58。赤倉岳登山口には 2 台駐車してあった。後から来た人が自分はミズ採りにいくと。CL の H.N さんが袴腰岳から赤倉岳に行くと話したら驚いていた。身支度をし、コンパスを鍋森にあわせ CL を先頭に所々舗装の切れた坂道を 30 分。右手に無線中継所(253m)、蓬田三山の案内板がある。衣服を調節し、標識のある登山口を下る。ヒバ林からブナの林の尾根道が続く。展望は得られないが、林床にはギンリョウソウが多い。304 m 分岐 9:10。ブナ、ヒバの林から笹になり、やや緩い尾根道を列を止めない様、物欲に負け、ひたすら竹の子をのメンバーでした。鍋森(548m)9:42～9:47 休憩。やぶ蚊は足元にまとわりつくけど顔にはつかないので



気にならない。気温も上がり汗ばむ。長丁場だけ竹の子とコケイラン、ウメガサソウ、サルメンエビネ、アケボノシュスラン等の花が疲れを癒してくれた。短い休憩を 2 回位し、大倉分岐。背丈以上の笹竹。声をかけながら約 30 分登る。笹の丈も低くなり、中里側との分岐を右に曲がると鳥居のある山頂。三角点がニケ所にあり、広く草地になっている。眺望が素晴らしく十三湖、大倉岳、赤倉岳、鍋森の縦走路がくっきり見えた。日差しが強く暑い。昼食と十分な休憩もとれた。帰路は大倉分岐、大倉岳と赤倉岳の分岐すぎ、ガレ場の登りには、ウラジロヨウラク、コケモモが可憐な姿を見せてくれた。赤倉岳山頂 563m。化粧直したらしい祠がある。縦走路の山並、袴腰岳を十分眺めた。H.N さんより急な下りが続くので慎重にと声をかけられ、笹につかまり、浮石に気をつけながら赤倉岳分岐ブナとヒバの尾根道を下り、またも欲張りミズ採り。蓬田川を渡り駐車場に疲労困憊ながらも無事到着。耐久登山となりました。

気にならない。気温も上がり汗ばむ。長丁場だけ竹の子とコケイラン、ウメガサソウ、サルメンエビネ、アケボノシュスラン等の花が疲れを癒してくれた。短い休憩を 2 回位し、大倉分岐。背丈以上の笹竹。声をかけながら約 30 分登る。笹の丈も低くなり、中里側との分岐を右に曲がると鳥居のある山頂。三角点がニケ所にあり、広く草地になっている。眺望が素晴らしく十三湖、大倉岳、赤倉岳、鍋森の縦走路がくっきり見えた。日差しが強く暑い。昼食と十分な休憩もとれた。帰路は大倉分岐、大倉岳と赤倉岳の分岐すぎ、ガレ場の登りには、ウラジロヨウラク、コケモモが可憐な姿を見せてくれた。赤倉岳山頂 563m。化粧直したらしい祠がある。縦走路の山並、袴腰岳を十分眺めた。H.N さんより急な下りが続くので慎重にと声をかけられ、笹につかまり、浮石に気をつけながら赤倉岳分岐ブナとヒバの尾根道を下り、またも欲張りミズ採り。蓬田川を渡り駐車場に疲労困憊ながらも無事到着。耐久登山となりました。



報告 S.TANAKA

46 さんようしとげ 算用師峠 (373m) ・ 47 おぎきやま 尾崎山 (230m)

地域 津軽半島・西海岸  
2007年5月27日

[ルート] 傾り石⇄算用師峠 下前通行止地点⇄尾崎山  
[参加者名] M.FUKASAWA 他 12名  
[コースタイム] 【算用師峠】 7:00 フェリー埠頭集合→(傾り石)→9:15 みちのく松陰道登山口発→10:35 算用師峠→登山口着 11:50  
【尾崎山】下前通行止地点発 13:20→14:04 尾崎山着

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

【算用師峠】 蟹田、やまなみラインから中里の今泉に抜け、小泊を過ぎて傾り石の橋の手前から林道に入りみちのく松陰道の標識のある登り口まで車を進める。

【尾崎山】 国道 339 号を北上し下前方面に向かう。下前通行止地点から小泊岬に向かい、遊歩道入口がスタート地点。

[山行記録]

【算用師峠】 雨模様の中、フェリー埠頭に集合し蟹田、やまなみラインから中里の今泉に抜け道の駅十三で Y.II さんと合流する。小泊を過ぎて傾り石の橋の手前から林道に入りみちのく松陰道の標識



のある登り口まで車を進める。途中まで断続的に強い雨が降っていたが小泊に入ると雨があがる。歩き始めてすぐ、森林軌道跡の朽ちた木橋が現れる。雨あがりの鮮やかな新緑が目にしみる。意外にアップダウンのある道で 10:35 に峠に着く。振り返ると小泊側の日本海が見えるが三厩方面の津軽海峡は全く見えない。天候のせいで見えないのか地形的に見えないのかは定かでないが。花の時期は少し過ぎたらしいがそれでも多くの花が認められ、名前を覚えてもらう。この日聞いた名前を記すと、コンロンソウ(白)、オドリコソウ(ピンク)、ユウシュンラン(白)、

ツクバネソウ(黄)、クルマバソウ(白)、ニンソウ(白)、コケイラン(黄)、ニシキゴロモ(赤白)、オオサクラソウ(赤紫)など。

【尾崎山】 下山後、小泊の道の駅で昼食にし、下前に向かい地滑りのため通行止めになっている道路上に車を置き、権現崎の尾崎山に登る。所々崩れているが遊歩道のような道で歩きやすい。尾崎神社を回りこむと権現崎の展望台に出る。断崖の下が日本海、薄っすらと十三湖が見えたが岩木山は見えなかった。神社そばのトイレ脇から踏み跡をたどると尾崎山の頂上になり漁業無線の中継所の建物がある。

報告 Y.HANADA

